

## アンナ・リオン (Anna Lyon) さんの岡山訪問報告： 日米相互理解と戦争体験の世代間継承のこころみ

アンナさんは、お父さんが書いた帰米直後の回想録（A D B Cメモリアルアーカイブに掲載されています）を読み直し、いろいろ付箋をはって、それにそって学生にお父さんの体験を話してくださいました。アンナさんは、お父さんを誇りに思う気持ち、お父さんの体験を語りながら、同時に、日本軍の監視兵が不必要な意地悪をしたこと話してくれました。彼女はとても愛情豊かな人で、その話からお父さんもそうだったんだろうなと思わせます。



「お父さんは前向きで、素朴で勇敢な人だった」とまとめていました。なお、アンナさんのお父さんはバターンの前線には参加していませんが、コレヒドール陥落のあと、現地人の前を歩かせる“恥の行進”を経験しているのです。その話もしてくださいました。

学生との交流の場は、いつもと異なる講義の時間帯で、アンナさんの自由行動日に設けました。京都観光か学生との交流の二択で、アンナさんは岡山での交流を選んでくださったのです。大学の教室を使い、いすや机を丸い形に並べ替えて

円卓型にし、協調できる雰囲気を出すよう勤めました。アンナさんには学生は関心はあるが、秋からの講義なので、初めて聞く話だということは念をおし、クラスの学生には事前に捕虜問題のあらましを伝えておきました。通訳を通じてのコミュニケーションでしたが、私も少し説明を加えつつ伝え、スムーズに運びました。中国人の留学生で中国人の強制連行の調査をしている院生も参加していました。

中国四国地方の学生たちは、シャイな傾向があるので、質問はまず紙に書いてもらい、うち3つほどその場で答えてもらいました。子供の受けるトラウマについても質問が出ました。アンナさんは長年、福祉関係の公務員の仕事をしていたのですが、その語り口は柔らかく、おかげで学生もくつろいで接することができたと思います。

今回は、一般に公開したいとも思いましたが、事前の決定まで数日しかなかったのと、学生いわく、大人の方がいると、どこまで質問していいかわからなくなる（自分が戦争や捕虜について無知だから、聞くと申し訳ない気がする）というので今回は、参加者は学生に限定しました。（学内の先生にはオープンにし、参観してもよい旨伝えました。）時間外にもかかわらず、学生の8割は参加、自由参加の学生もいて総勢25名くらいだと思います。なごやかな2時間でした。ランチゼミの予定で軽食も用意しましたが、話に熱が入って食事をする暇もなく、ディスカッションで終わった2時間でした。アンナさんは居並ぶ男女の若者たちをみて“Beautiful”と言っていました。学生側の質問は他にもいろいろありましたが、これはアンナが持ち帰ってからの楽しみで、そのうちお返事をされるでしょう。

伊吹由歌子さん達が作られた奉天収容所のHPも学生の準備の際に利用させていただきました。  
<http://www.us-japandialogueonpows.org/MukdenPOWcamp-J.htm> ここに記してお礼申し上げます。

今回の大学生とアンナさんの交流は捕虜の娘の世代が国を超えて孫の世代に戦争や捕虜のことを伝えるよいチャンスになったと思います。学生の祖父母は疎開経験や空襲経験をしている子供たちですから。

アンナさんとは以前のADBCの大会でテーブルが同じになり、2年前から親しく話すようになりまし

た。今年の夏の ADBC の大会でまたご一緒により親しくなったのが、今回の岡山訪問のきっかけです。お父さんは奉天だったので、日本で知り合いの私に会いたいと行ってくださったのがイベントの契機でした。

講義のあと、ちょうどホテルのチェックインまで時間があいたので、市立の岡山空襲ミュージアムをご覧いただきました。アンナさんは展示物を見ながら、その惨状に驚き、初めて知ったといい、「こんなことをされて許しているなんて・・・」という意味で、“You are forgiving people.” と繰り返しおっしゃっていました。(みなさんご存知アニメ映画「火垂るの墓」の高畑監督は、この岡山空襲の経験者で、アニメにその経験を反映させています。)

翌日は、地元の名店の天満屋(この地下でも空襲で多くの方が亡くなっています)、日本三大名園の後樂園と岡山城、伝統的な日本のお土産屋を見学し、食事では串カツを賞味して帰られました。学生たちからのピンクのカーネーションの小さい花束とメッセージの色紙をしっかりと土産に持ち帰られました。先日メールが来て「あなたの講義で話したのが私の旅のハイライトだった。こんな機会を作ってくれて有難う、とても栄誉だと思った」とメッセージを頂きました。

このような貴重な機会を与えてくださってありがとうございます、と私と学生たちから申し上げます。こんな機会が可能になるまでに、本当に多くの方が種々多様な努力をされてきたと思います。そのかたがたにも、お礼を申し上げます。岡山大学では、かつて三井三池炭鉱で強制労働させられた「全米バターン・コレヒドール防衛兵の会」最後の会長、故テニーさんが話されたこともあります。外務省の方もアレンジがさぞかし大変だったことでしょう。願わくは、この交流が継続する事を願います。今年は、直接捕虜の講義を行っていたので、グッドタイミングでした。外務省から派遣されてきた付き添いの JICE (日本国際協力センター) の方もてきぱきと、親切で温かみがあり、有能な方でした。彼女にも有難うと伝えたいです。

(岡山大学准教授 中尾知代)